

第十八回

# 名曲能の会



能

## 百万

## 大村定

狂

言

## 謀生種

平成二十八年十二月十日(土) 午後一時開演

(正午開場)

### 喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎四一六一九

TEL・03(3491)8813

番組

解説 三浦裕子

狂言

謀生種 シテ石田幸雄 アド内藤 連

— 休憩二十分 —

能

子方 大村稔生

シテ 大村 定

百 万 登

太鼓 國川 純 太鼓 觀世元伯  
小鼓 曾和正 博 笛 榎宅 聰

間 奥津 健太郎

後見

塩津哲生 中村邦生

地謡

金子敬一郎 出雲康雅  
内田成信 香川靖嗣  
友枝雄人 友枝昭世  
栗谷浩之 栗谷能夫

終了予定 午後三時半

## □本日の上演曲

### 能〈百万〉

子どもを拾った都方の僧が、嵯峨の清涼寺で催されている大念仏会に連れていく。寺の門前の男に、子どもに面白いものを見せてほしいと頼むと、下手な念仏を唱えると百万という女物狂が現れて、巧みに音頭をつとめると答える。そして自ら南無釈迦牟尼仏と唱え始めると、案の定、百万が車に乗って登場し、拍子が悪いと言い、南無阿弥陀仏と唱える。続いて、車を引くさまを見せ、わが子に逢いたいと訴える。子どもは百万が自分の母親であることに気づき、それを僧に告げると、驚いた僧は百万にいろいろと尋ねる。百万は奈良の者で、夫に先立たれうえ、わが子とも生き別れとなり、子どもとの再会を願って念仏を唱えているのだと言う。そして、法樂の舞を謡い舞い、人びとで雑踏する境内を探し回る。同情した僧が子どもに引き合わせると、百万は喜び、ともに故郷へと帰っていくのであった。

能には、母親が生き別れとなったわが子を狂乱して探す旅に出るうち、神仏の加護を得て再会する作品群がある。本曲もそのひとつで、三つの特徴があげられよう。

第一は、シテが百万という実在の芸能者で、奈良から都に至る道中を長大な曲舞で表す場面が見どころとなっている。第二は、清涼寺が三国伝来の釈迦仏を本尊としつつ、由緒ある阿弥陀三尊も安置している点である。本曲で釈迦と阿弥陀を念じる声が入り混じるのはそのためである。第三は、大念仏会は融通念仏を広めた円覚に由来する四月の法要で、本曲は観阿弥作と伝わる春の名曲。

### 狂言〈謀生種〉

嘘が得意な伯父にいつも騙されている甥が、嘘で勝負しようと思いい、伯父を訪ねると、富士山に入びとが紙袋をかぶせたのを見たと言う。すると伯父は琵琶湖の水を茶に点てて飲み干したのを見たことがあると、さらに大きな嘘を言うので……。和泉流だけが所演する曲。

### □出演者の紹介

大村 定 (おおむら・さだむ) 〓 〈百万〉シテ

シテ方喜多流。一九四九年、大村武の三男として広島に生まれる。十五世喜多実に師事。〈翁〉〈道成寺〉〈石橋〉〈望月〉〈安宅〉などを披く。名曲能の会および定会・総会を主宰。喜多流職分会同人。日本能楽会会員。

大村 稔生 (おおむら・みのり) 〓 〈百万〉子方

二〇〇九年、東京に生まれる。大村定の孫

石田 幸雄 (いしだ・ゆきお) 〓 狂言〈謀生種〉シテ

狂言方和泉流。一九四九年、東京に生まれる。野村万作に師事。古典はもちろんのこと新しい試みにも意欲的に挑むなどしている。観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。日本能楽会会員。

三浦 裕子 (みうら・ひろこ) 〓 解説

武蔵野大学文学部教授・能楽資料センター長。一九五九年、東京に生まれる。著書に『能・狂言』(学校で教えない教科書シリーズ)、『面からたどる能楽百一番』など。

画・横尾祐平 文・三浦裕子

## 入場券（全席指定）

S席（正面席）	10,000円
A席（正面席）	9,000円
B席（脇・中正面席）	8,000円
C席（二階席）	6,000円
D席（二階学生席）	3,000円

〈お申し込み・お問い合わせ〉

名曲能の会-048(482)0068

喜多能楽堂-03(3491)8813

主 催

# 名 曲 能 の 会 大 村 定

埼玉県新座市片山 2-11-20  
TEL・FAX 048 (482) 0068

